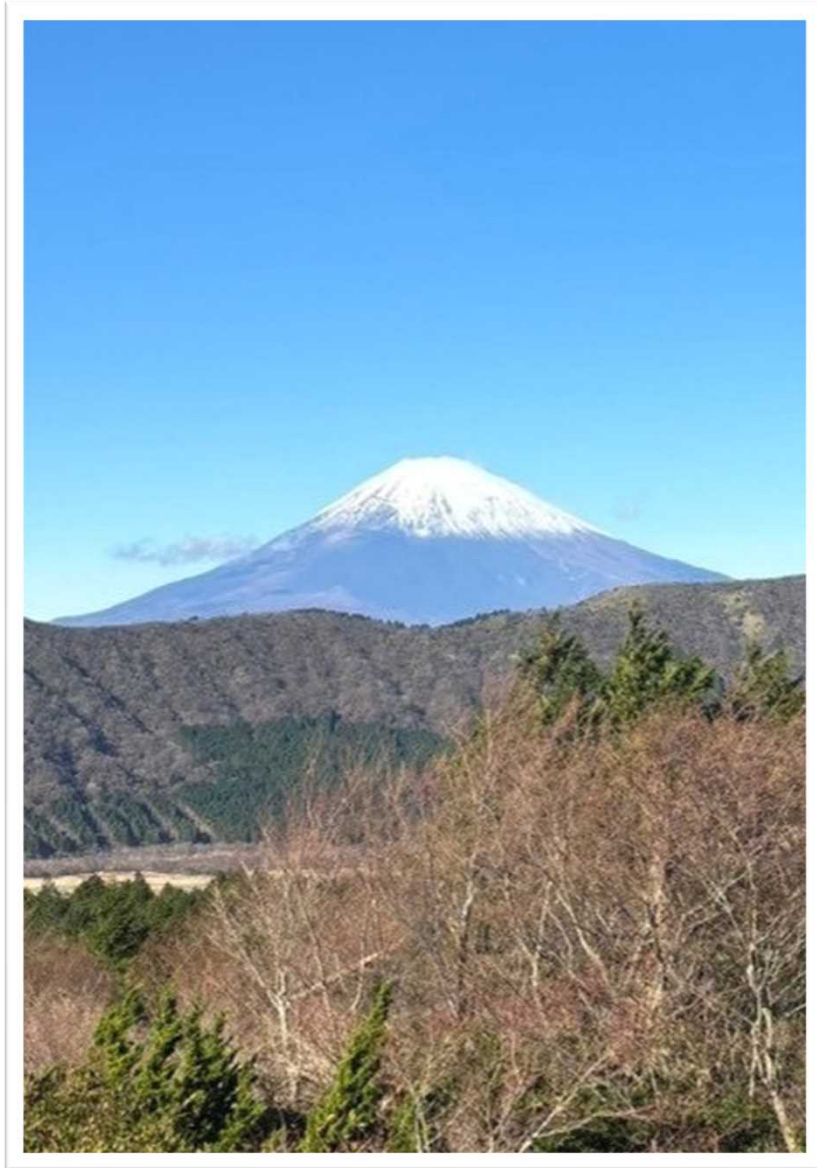


令和 6 年度入省予定 内定者の声



環境省一般職事務系 内定者一同

はじめに

この度は「内定者の声」をご覧ください、ありがとうございます。

この「内定者の声」は、環境省やその内定者のことをより深く知っていただくため、令和6年度入省予定の一般職事務系(大卒程度)の内定者が中心となって作成しました。

第一部では基礎情報として、令和5年度の試験スケジュールや内定者の基礎データについてご紹介します。第二部では内定者プロフィールとして、環境省を志望したきっかけや公務員試験の勉強方法および面接対策についてまとめています。内定者一人ひとりが環境省に対する思いを見つめ直し、自分自身の内定に向けての取り組みを振り返りました。就職活動や試験勉強を進める上での「ヒント」として、是非ご活用ください。環境省が担うのは、日本の、そして世界の未来世代に豊かな地球を確実に引き継いでいく仕事です。このミッションをともに背負おうと環境省の門を叩いた「内定者の声」をお届けします。

☆内定者A

【出身地】千葉県

【最終学歴】既卒（2018年卒）

【趣味／特技】ランニング／ゴルフ

○環境省の志望動機：

自然豊かな地域で生まれ育った事から自然を守り、将来に残していくことに携わりたいと考え環境省を志望しました。買い物をする際はエコバックを持参するなど日常生活の1つ一つの行動が環境に繋がっていると日々感じます。前職では人事や会計コンサルとしての経験を積み、常に費用対応効果の観点から効率よく仕事を進めてきました。これらの経験を存分に発揮して環境省職員として環境問題の解決に貢献していきます。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

私が試験勉強を始めたのは2024年2月頃で、試験まで残り4か月ぐらいでした。最初に行ったことは、どの科目を解いて、合格圏内の点数まで持っていくのかを考えました。基礎能力試験では数的処理と文章理解（特に英文）の勉強に力を入れました。専門科目は得意科目の英語（基礎・一般）を選択して民法を捨て科目にしました。

・基礎能力試験

朝に知能分野（特に数的処理）を勉強していました。数的処理→文章理解という流れで一日の勉強リズムを作りました。私が大事にしていたことは、「得意科目から勉強をスタートすることで、気分良く試験対策をしていこう」という姿勢です。知識分野は声に出しながら、何度も頭にたたき込みました。

・専門試験

試験まで準備期間が短いため、大学で興味があった科目に絞り勉強しました。私はミクロ・マクロ経済学の勉強が楽しいと感じていたため、この2科目は勉強量を増やし、反対に民法は捨て科目としてあまり勉強しませんでした。合格するにはどの科目に力を入れて対策をしていくべきか、常に意識しました。

・論文試験

時事問題を解く際は、論文に活用できるネタが無いかを常に見つけていました。加えて、ニュース等で話題になっている内容を把握し、問題となっていることに対して自分なりの解決策を出していました。

○試験・官庁訪問

元気・笑顔・ハキハキと話す。意識していたことはとてもシンプルでした。加えて自身が面接でアピールしたい点を整理しました。前職が人事部で業務をしておりましたので、どんな質問が来るのかは予想ができました。ただ、想定外な質問もありましたが、正直に分かりませんと伝えました。自分らしさを存分にアピールして面接に臨んでください。

○終わりに

もう一度、公務員試験の勉強をやりたいか？と聞かれたら、「絶対やりたくない」と回答します。私はこれ以上の努力はできないと自信を持って言えます。皆さんはいかがでしょう。日々の試験対策に大変苦労があると思います。地道な努力の積み重ねが良い結果につながるように全力で応援しております。皆さんと一緒にお仕事ができる日を楽しみにしております。

☆内定者B

【出身地】神奈川県 横浜市

【最終学歴】大学院修了見込み

【趣味／特技】趣味：町を歩くこと 特技：鉛筆画

○環境省の志望動機

研究活動の経験から、日本全体に関わる仕組みづくり・国の基盤づくりに携わりたいと考え、国家公務員を志望していました。そこで、令和4年度女子学生霞ヶ関インターンシップに参加したところ、「空が綺麗。風が気持ちいい。このような日常的な些細な幸せを守りたい。」とおっしゃっている環境省職員の方に出会いました。私はこの言葉に感銘を受け、環境問題に立ち向かうことの社会的意義・国民の幸せを守るという責任の重大さに魅力を感じました。

また、和気藹々とした雰囲気の中で、「環境を良くしよう」という共通の目標に向かって一丸となって取り組む、環境省職員の方々の「チーム力」に惹かれました。自分もこのチームの一員となって働きたいと強く思い、環境省を志望しました。

○勉強方法・面接対策

一次試験の約一年前から、独学で勉強しました。

・教養試験

数的推理・判断推理・文章理解から勉強を始めました。苦手意識のあった数的推理・判断推理に関しては、過去問演習を積み重ねる際に「正しい知識」や「正しい解法」を学ぶ必要があると考え、参考書を活用しました。また、どんなに忙しくても1日30分以上は必ず問題を解くようにし、解法の定着と苦手意識の払拭を図りました。

全体的に、難易度の高い問題にまで手を広げるのではなく、「典型問題を確実に押さえること」を意識しながら取り組んでいました。同じ過去問題集を何度も繰り返し解き続けることで苦手な科目や単元をあぶり出し、丁寧に潰していくようにしていました。

・専門試験

憲法・行政法・民法Iから過去問題集を購入して勉強を始め、一通り定着した段階で、民法II・マクロ経済学・ミクロ経済学と段階的に科目を増やしていきました。「正文化」と呼ばれる、設問文の誤った箇所を正しい文章に書き直すという勉強方法を採用し、過去問題集に書き込みながら進めました。教養試験の対策と同様に、同じ過去問題集を何度も繰り返し解き続けることで、知識の定着を図っていました。

・人物試験

定番の質問に対する回答はあらかじめ用意しておき、その上で、面接官の方々の質問の仕方に応じて回答の仕方を柔軟に変えられるよう、色々なパターンを想定して自己練習しました。人と面接練習する機会をあまり設けられなかったので、自分の声を録音するなどして、自分の受け答えを客観的に見直すことができるように努めていました。当日は、「質問」に対する「答え」だけを簡潔に述べることを意識して臨みました。

すぐに「答え」が浮かばないときは焦ってしまいましたが、少しお時間をいただいて、落ち着いて考えて良いと思います。適当なことを言うよりも、誠実に答えようとする姿勢が重要なのではないかなと思います。

○最後に

公務員試験は科目数が多く、「何から手をつけたら良いのか」「何を優先すべきなのか」と混乱し、不安な気持ちになることもあると思います。私は一人で勉強しましたが、それでも「他の誰か」の存在を意識し、自分のペースを見失うことがありました。

誰にでも得意不得意があって、勉強方法にも合う・合わないがあります。長い時間集中できる人もいれば、できない人もいます。「他の誰か」と比較して自分を責める必要はありません。自分自身としっかりと向き合い、自分にできることを見定めることが大切だと思います。

☆内定者C

【出身地】 埼玉県

【最終学歴】 大学卒業見込み

【趣味／特技】 バレーボール、日記

○環境省の志望動機

地球規模での環境問題解決が課題となる中、自身の所属する環境学科で学んだ知識を生かしながら国単位での貢献がしたいと考え志望しました。2050年目標のカーボンニュートラルの実現には、国全体で対策に打ち込むことが重要であり、そのためには国民全体の意識向上が必要不可欠であると学びました。国家公務員として、国民の環境意識を高く維持させながら、前向きに解決へ導きたいと考えました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

（筆記試験）

大学内講座を毎週受けながら、自身で過去問題集を繰り返し解いて知識を定着させました。学び始めはあまり自力で解けない問題も、2周3周と繰り返し挑戦することで解き方を身に着けることが出来ました。授業やアルバイトなど、なかなかまとまった時間を確保するのは難しいですが、移動中の電車や空きコマなどの隙間時間を活用して勉強しました。

また、筆記試験は長いこと勉強し続け、ようやく知識が固まりだした直前期に一気に問題が解けるようになり、模試の点数も伸びました。適度に休みを入れながら、とにかく気長に・ひたむきに続けることが肝心だと思います。

（面接対策）

大学内のキャリア支援センター職員や学内講座の講師の方々をお願いして、模擬面接をしていただきました。話し過ぎない・的外れな回答をしない・ある程度自然体で話せるように練習をしました。面接対策は自分と向き合う時間を作ることも大事だと思います。

今まで頑張ってきたことやどういった立場・役にまわることが多かったかなど、リラックスできる空間で過去を振り返り手帳に書き出したりもしました。

☆内定者D

【出身地】 茨城県

【最終学歴】 大学卒業見込み

【趣味／特技】 ライブ観戦、旅行／暗算

○志望動機

小学生の時、地元の湖の水質汚濁について学んだことから、環境問題に関心を持つようになりました。また、大学の講義の環境経済学にて、公害問題や生物多様性などについて幅広く学んだことにより、広く環境に関わる仕事を行いたいと考えるようになりました。環境省で政策に携わり、日本全体、そして地球全体に影響を与える環境問題を改善していき、社会に貢献したいと考え、志望しました。

○勉強方法・面接対策

大学まで電車＋徒歩で片道2時間かかっていたので、電車の中ではほとんどの時間を勉強に充てていました。

・教養試験

文章理解が苦手だったので、毎日問題に触れるようにしていました。その結果、次第と正確性が増し、得点源になりました。数的処理は元々得意でしたが、時間が足りない事が多かったので、常に時間を意識して問題を解くようにしていました。知識分野は、寝る前にテキストを読み込んでいました。

・専門試験

経済学部だったので、経済系は得意でした。可能な限り正答率を上げたかったので、テキストの細かい所まで確認し、何故このような考え方になるのかという本質を理解するようにしていました。政治系科目や民法はかなり苦手だったので、問題を何度も繰り返し解いて、パターンを掴んでいきました。また、自分なりにノートにまとめたり声に出したりして暗記をしていきました。

・論文試験

予備校の予想問題や模試で出題されたテーマを中心に10テーマほど用意していました。自分で書く練習はあまりせず、まとめた内容を可能な限り暗記して本番に臨みました。

・面接

模擬面接やハローワークを活用して練習を行い、想定質問とそれに対する答えをしっかりと準備しました。また、説明会で興味を持った環境省の政策について詳しく調べ、自分の考えを言葉で説明できるようにしていました。面接本番は非常に緊張するかと思いますが、いかに自分の熱意を伝えられるかが重要だと思います。

☆内定者E

【出身地】北海道

【最終学歴】大学卒業見込み

【趣味／特技】小説を書くこと、フットサル

○環境省の志望動機

父が環境に関わる仕事をしていて、深く興味を持ったため

○公務員試験の勉強方法・面接対策

参考書を買って、問題演習を繰り返すに尽きます。後は、模擬試験を受けることも効果的。

面接対策は、スクールに通うことがベターです。面接の際にはとにかく笑顔でいることが大切です。

☆内定者F

【出身地】千葉県

【最終学歴】大学卒業見込み

【趣味／特技】楽器演奏

○環境省の志望動機

人命や大切な資源を守り、持続可能な社会を実現したいという想いから、環境省を志望しました。私は自分自身の仕事が社会に与える影響の大きさに魅力を感じたため、国家公務員を目指しています。その中でも、環境省には、地球温暖化対策や福島復興再生など、長期的かつスケールの大きい仕事が多くあります。そのため、私もそのような業務に携わり、持続可能な社会の実現に貢献したいです。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

1日の勉強時間は、直前期以外は平均2~3時間、直前期は平均3~5時間ほどでした。どの試験科目も、基礎的な問題でミスをしないようにすることを心がけていました。

【教養試験(択一)】

大学の講義の合間に予備校のWeb講義を受講して、あとはひたすら過去問を解いていました。教養試験対策で特に力を入れた科目は、苦手な数的処理です。数的処理は基礎を固めることに重点を置きました。過去問で間違えた問題については、その単元のWeb講義を再度確認して、1週間以内に同じ問題を解き直したり似ている問題を解いたりしていました。文章読解は、直前期に過去問を解いて、形式・解法の確認をしていました。暗記科目については、社会科学・人文科学を重点的に勉強して、自然科学は高校の授業で受けていた生物・地学の基礎事項を直前期にさらっていました。

【専門試験(択一)】

専門試験についても、教養試験と同様に、まずは予備校のWeb講義を受講して知識をインプットしていました。その上で、過去問を繰り返し解いていました。特に、苦手な民法・ミクロ経済・マクロ経済の対策に力を入れました。民法は、過去問で間違えた問題について、その単元のWeb講義を見直したり過去問の解説で重要なポイントをメモしたりしていました。経済科目も、過去問で間違えた問題に関わる部分をWeb講義で再度確認したり重要な公式や用語をメモにまとめたりしていました。まとめたメモについては、直前期の対策や試験当日の最終チェックに使っていました。それ以外の科目(政治学・財政学・社会学・経済事情・労働法など)については、直前期(試験の年の2~3月以降)にWeb講義の受講と過去問演習を行いました。

【論文試験】

論文試験の対策は、試験の年の1月から始めました。予備校のWeb講義やテキストを使って論文の形や頻出テーマをインプットして、一通り書いて予備校の先生に添削していただきました。その後先生のアドバイスをもとにブラッシュアップして、その文章の流れを覚えました。また、予備校で開催されている論文練習会にも参加しました。

【面接試験・官庁訪問】

まず、予備校のWeb講義やテキストを使って、面接の流れやよく聞かれる質問内容をインプットしました。その後、自己分析を行い、面接でよく聞かれる質問の回答を作成しました。そして、予備校の模擬面接を定期的に利用して、質問の深掘りに対する答え方や言葉遣い、面接官とのアイコンタクトの取り方などを勉強しました。

☆内定者G

【出身地】 東京都

【最終学歴】 大学卒業見込み

【趣味／特技】 カフェ巡り、散歩

○環境省の志望動機

「多くの人々の生活を根底から支えていきたい」という想いを抱えています。そして社会から取り残された人を作らない、つまり声なき声を拾っていきたくて考えています。大学で政治について専門的に学んでいく中で、行政の複雑さ、難しさを知るとともに、本当に声なき人々というのは、複雑な行政の中で置き去りにされてしまった人達であると考えます。複雑化する社会の中でも、一步引いた立場で物事を判断できる環境省こそが、社会に置き去りにされた人々を救うことができると考えています。

環境省は、人々の生活、命の基盤となる「環境」を守るというミッションを掲げており、真正面から「環境」について扱うことができ、長期的にビジョンを描き、先行き不透明な社会に立ち向かい、重要課題に取り組むことにやりがいのある業務に参画したいと感じ、環境省を強く志望するようになりました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

【教養試験】

数的処理は毎日1時間程度全体的に解いて、問題と時間配分を身に着けるようにしていました。文章理解は、英文が苦手だったため1日1問は解いていました。暗記科目はとにかく量が多かったため、絞って行っていました。しかし実際に試験を問いていく中で、教養試験で差がつくのは、この暗記科目だと思ったので、暗記科目を早めから取り掛かることをおすすめします。

【専門試験】

憲法、行政法、ミクロマクロ、民法に力を入れていました。こちらは年が明ける前に完璧にする勢いがないければ間に合いません！年が明けてから政治学、行政学、財政学、社会学、経営学に手を付けました。

【論文試験】

『寺本康之の小論文バイブル』という本と、予備校でもらった予想問題を利用し原稿を作成し、予備校の講師に何度も添削してもらいました。11月頃から取り掛かりました。2週間に1問くらいのペースだったと思います。

【官庁訪問】

待ち時間が長いと先輩から聞いていましたが、本当に長かったです(笑)しかし当日はとても緊張し、待ち時間では何も頭に思い浮かばなかったので、事前にたくさんの質問とアピールしたい項目をメモにまとめておくのがおすすめです。

【二次試験】

人事院面接は、例年割と型にはまった内容です。そして時間もとても短いです。その中で人と差別化させるためのアピールポイントを強調し、面接官にアピールしました。

☆内定者H

【出身地】 千葉県

【最終学歴】 大学卒業見込み

【趣味／特技】 スポーツ(体を動かすこと)・料理・旅行

○環境省の志望動機

もともと環境問題に関心があり、環境に携わる仕事がしたいと思いと様々な環境問題を解決する仕事に携わりたいという思いがあり、環境省を志望しました。大学時代には講義で環境問題について多くを学び、そこで得た知識を活かせる仕事がしたいと思いました。今や環境問題は多くの人たちの関心ごとでありながら世界規模の問題であり、このような規模の大きく、やりがいのある仕事に携われるのはここでしか実現できないのではないかと考えています。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

【筆記試験対策】

公務員試験の過去問題集を繰り返し解きました。私は理系であったこともあり、筆記試験対策(特に専門試験対策)に多くの時間を割き、毎日目標を立て勉強に励んでいました。特に教養試験や論文試験では時間が限られているため、日ごろから解答時間等を意識して問題に取り組んでいました。私自身が勉強面で工夫していたことは、一日の最後に今日一日で何を学び、どんな知識を身に着けたかを確認(復習)しており、一日の成長を感じながら勉強に励んでいました。

【面接対策(官庁訪問)】

面接の準備段階では、これまでの経験や行動を踏まえて、環境省で働くことをイメージしながら論理立てた構成を考え、そこから自分の言葉で話せるようにまとめていました。実際の面接試験前には、面接内容を丸暗記するよりもこれだけは面接官に伝えたという言葉をつかまとめて面接に臨み、なるべく簡潔に受け答えすることを心掛けました。話す内容もちろん重要であるが、面接では面接官によい印象を持ってもらえるように、聞く態度などの姿勢や身なり、言葉遣いなどに気を配り面接試験に臨んでいました。

終わりに

～環境省志望者へのメッセージ～

「内定者の声」を最後までお読みいただき、ありがとうございます。

内定者一人ひとりが様々なバックグラウンドや思いを持って環境省を志望したこと、そして、内定に向けて自分自身に合ったやり方を模索しながら取り組んできたことが、伝わりましたでしょうか。

就職活動や試験勉強は自分自身と向き合うことであり、やり方に正解はありません。この「内定者の声」も含め、多くの情報や意見が飛び交う中では、混乱してしまうこともあると思います。その際は、自分自身の価値観や意志を最優先にしてあげてください。一生懸命に取り組む皆さんが、悔いの残らない結果を掴めるよう、心から願っています。

最後になりますが、少しでも環境省に興味をお持ちの皆さんにとって、この「内定者の声」が就職活動や試験勉強の糧となり、お役に立てれば幸いです。